

高田 本山 だより

聖人の「明日ありと思う心のあだ桜……」
のお言葉が身に染みてくる。昨今です。まずは
ご自愛ください。



121



WEB VERSION

WEB VERSION

こんな行事がありました



除夜の鐘



高札掲示



念珠の結び方講座

昨年末の十二月十三日に念珠結び方講座がありました。少しコツはありますが、高田派の念珠が作れるようになったようです。

二十六日には山門前に令和五年の特別法要を知らせる高札が掲げられました。重機を使って慎重に作業をしていました。

翌二十七日には綺麗な虹がかかり前途を願われているように感じました。

二十八日はおすすがありました。外陣から伺うことはできませんが、法主殿お手自から親鸞聖人の座像をお磨きになれ、新年を迎える準備をいたします。

年末には除夜の鐘が一



12/27の風景

身田寺内町に響きわたりました。

令和二年となり、例年どおり、正月一日から三日間、修正会しゅしやうえが勤まりました。

九日から十六日は真宗で最も重要な法会となる報恩講ほうおんこう（お七夜）が賑やかに勤まりました。当日の様子は一頁に掲載しております。皆様、一日はお参りされましたか。



年賀式

一月二十日・二月十二日には真宗入門講座が開催されました。どなたでも聴講いただけますので、裏表紙の行事予定をご覧ください。ご参加ください。

昨年は首里城の火災もあり、一月二十六日の文化財防火デーの前に二十四日に行われた防火訓練は参加者一同真剣に取り組んでおりました。引き続き境内禁煙にもご協力ください。

二月一日は年賀式が御対面所で行われました。本山を支える各講社の人



2/9の雪景色

たちが法主殿に新年のご挨拶をいたします。

二月十三日は布教伝道研修講座でした。僧侶の研修を兼ねて皆様に法話を聴聞していただける場として定例で開催されています。

また、本山主催行事ではありませんが、本山を会場として真宗教団連合三重県支部の仏教公開講座が二月四日に森達也氏をお迎えして、同支部中勢ブロックの仏教公開講座は二月二十一日に尾畑文正師をお迎えして開催されました。

親鸞聖人ご旧跡を訪ねて

第15回 越後の七不思議



鳥屋野の逆さ竹



山田の焼鮎
聖人のお姿の切株
は火事で曇りな
てしまいました



保田の三度栗
当時の栗の木は
孝順寺本堂に
あります



田上の繋ぎ樫



小島の珠数掛桜
天然記念物です

小島の八房の梅

親鸞聖人は越後国府（現在のの上越市直江津地区）に流罪になりました。しかしその足跡の多くは、遠く離れた中越エリア（新潟市周辺）に七不思議として残っています。前号で触れました片葉の葦の伝承はそのひとつです。

中越での拠点のひとつといわれているのが鳥屋野の草庵で、この場所には逆さ竹が生えています。

この里に親の死したる子はなきか

御法の風になびく人なし

と、なかなか御念仏する人がいなくて嘆く歌を読まれましたが、さらに、手に持った竹杖を地面に挿して枯れた竹がふたたび芽をだすようなもののだと言われました。すると、たちまち根が生じて、枝葉が逆さに生えた奇瑞を目にした地

元の人に信心がめばえたという伝承です。

また、聖人が御赦免をうけて鳥屋野を出立されたときに見送りの人たちが山田というところ

で宴を催されます。この時にだされた焼鮎を山王神社の池に放つと行き帰り泳ぎ出したという言い伝えがありました。江戸時代に大風でこの池のそばにあった大木が折れ、そこに聖人のお姿と焼鮎の形があらわれたことから、以後大切に切り株を厨子に安置しています。

中越にご滞在中には保田という里でだされた

焼き栗を蒔いて布教されたところ、芽がでて年に三度実のようになったという不思議もつたわっています。同じようなお話は越前にも伝わっていますので、三度栗にはよくよく因縁があるようです。

次に少し山の方に入ったあたりの田上という

ところに護摩堂山があります。こちらの城主に招かれた時に供された焼いた樫の実を蒔いてここから枝葉がでれば私の話の間違いないというお話です。この樫は農民が城主に納めるときにひとつひとつ糸で繋いであったので穴の跡があり、新しく出てきた実にも穴があったことからつなぎ樫の名前で知られています。

最後は小島の里にある八房の梅と珠数掛桜です。護摩堂への道すがらこちらで食事をされた時に梅漬けを家の主人から馳走になりました。このひとつを

我が法末世に繁昌せばこの梅ふたたび生ぜよと言つて庭投げたところ、ここから大木となり一輪の花に八つの実を結ぶ梅が育つたということです。

桜は聖人が枝に珠数をかけて説法されたのちに珠数のように花が繋がって咲くようになったといわれています。

鳥屋野の逆さ竹（西方寺旧跡）へは新潟駅からバスで鳥屋野バス停または女池愛宕下車徒歩5分。山田の焼鮎へは新潟ふるさと村バス停から徒歩5分。保田の三度栗（孝順寺）へは水原駅からバスで保田横町バス停下車徒歩5分。田上のつなぎ樫（了玄寺）へは田上駅から徒歩15分。小島の里（梅護寺）へは最寄りの京ヶ瀬駅から2キロメートルです。

（山川 蓮生）

「阿難」

釈尊シリーズ ⑱



釈尊しやくそんの十大弟子じゅうだいの一人に阿難あなんという弟子でしがおりました。阿難は釈尊が入滅にゅうめつされるまでの二十五年間侍者じしやとして仕え、釈尊の行く先々には必ず随行ずいこうし、身の回りの世話をしてきました。そのた

め弟子の中でも釈尊の説法を最も多く聞き、やがて一語いちごも間違えずに復誦ふくじゆうすることができるようになり「多聞第一たもんだいいち」と称しょうされました。聖人せいじんは浄土和讃じやうどわさん、大経だいきやう意い(無量寿経の意むりやうじゆきやうのい)をお

書きになるにあたり、最初に阿難のお名前をあげられています。

尊者阿難座そんじやあなんざよりたち世尊せそんの威光いこうを瞻仰せんごうし生希有心しやうけうしんとおどろかし未曾見みぞうけんとぞあやしみし

ある時阿難は思わず座から立ちあがり、世尊せそん(釈尊)の清らかで光顔こうげん巍巍ぎぎと光り輝く相を仰すがたぎ見て、そのあまりにも有り難く尊とうといお相に驚きの心が生じ、未だいまかつて一度も見たことのない尊さにどうなされたのであるうかと不思議ふしぎに思いました。

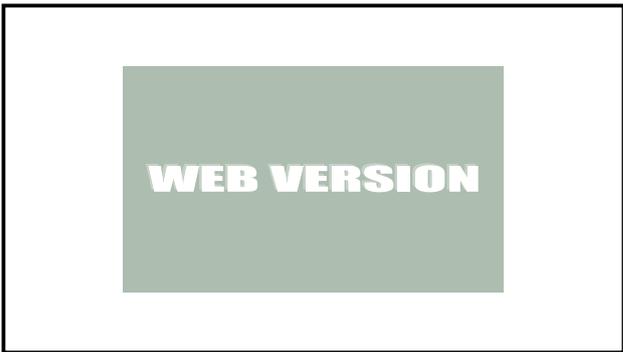
そこで阿難は釈尊に何故なにゆえそのような相を示されていのかお訊なすねします。すると釈尊は阿難の気づきをよろこばれ、そ

のお顔は殊ことに輝き、「仏のさとりの境地に入った自分の智慧のいわれをよくぞ訊なすねたな。」とおほめになりました。

続いて釈尊はこの世に生まれてきた本意ほんいをお説きになられます。その本意とは、「阿弥陀如来あみだにょらいの本願が真実しんじつであることを説きひろめることである。」と仰おっしゃられます。

この様に、真宗の根本經典こんぽんきんぎょうである無量寿経は阿難の問もんいが機縁きえんとなり説かれていきます。

はたして釈尊は自ら光を放ったのでしょうか。今まで釈尊の教えを唯々ただただ記憶きおくしていた阿難ですが、自らが真実の教えを信受しんじゆする気持ちほつを発した時、師の相もより気高く光って見えたのでしよう。(教学院第三部会)



生活の中には、私たちに理解しがたい現実が多々あります。

三十年ほど前にかかなり大きい携帯電話が登場しました。

それは聞く事と話す事が同時に出来る通話に驚き、SF世界の現実化でありましたが、今では、だんだんとサイズが縮小され腕時計型電話の時代となりました。

その通話は送信と受信を超高速に自動に切り替え繰り返し返して途切れないように聞こえるのだということをご存知でしたか？

これは、私たちにとって理解しがたい技術の進歩であります、その理由を知らないまま便利に有難く利用させていただいています。

ところで、阿弥陀佛のおはたらき(名号の功德)を完全に、常に理解しているでしょうか。

当たり前のようにお念仏申す私ではありますが、親鸞聖人は、そのおはたらきである功德は、称賛しはかり比べる事が出来ず、説き尽くすことも出来ない。そしてこの私の思い考えが及ぶことが出来ない「不可称・不可説・不可思議の功德」と申されま

その不可称・不可説・不可思議である佛の願いは、

私の意思に関係なく、私の理解を超えて常に願い続けて下さっている、尊く有難い願いであると聞かせて頂くことではないでしょうか。

そしてまた、私の意思と理解を超へた我が命も不可称・不可説・不可思議と頂くことが出来るのではないのでしょうか。

皆様は、この命の根源を尋ねたことはありませんか？

ご先祖方をお数え下さい。両親二名、祖父母四名、曾祖父母八名、高祖父母十六名・・・と、しかも、母方の父方の母方の母はご承知でしょうか？

数えるにしても限界が必ずあるはずですが、私が今ここに在ることは数え切れないご先祖と数え切れないお支えがあったる存在であることに気づかされるはず

であります。

これを「偶々なご縁の授かりを生かされている」尊さであり、とんでもないありがたい命と知ることが窺えることでもあります。

それゆえに、「知らなくても良いだよ、今のこの命をおかげさま」と、この命に目ざめ、命に生きる、念仏を申す日々でありたく存じます。



高田本山ガイドツアー

お寺を楽しむ
毎週土日祝のみ開催
出発時間 13:30
受付場所 総合案内所
料 金 おひとり500円
中学生以下無料
当日受付 先着20名まで



※疾病の拡散防止のお願い

本誌面作成時では、特段の指示が公的機関からありませんが、状況により各種行事が中止または内容が変更される場合もございます。

行事等にご参加いただく場合には、マスク着用など各自で拡散防止にご協力いただきますようお願いいたします。また、特定の病因にかかわらず、体調不良時には参加を見合わせ、ご自愛ください。

● 行事案内

- 三月十四日～二十二日 大涅槃図公開
- 三月十六日 涅槃会
- 三月十七日～二十三日 讚仏会
- 三月十八日 真宗入門講座
- 三月二十三日～四月七日 写生大会
- 三月三十日～四月一日 中学生教化合宿
- 四月六日～十一日 千部法会
- 四月八日 釈迦三尊会
- 四月九日～十日 十万人講法会

- 四月十一日 戦没者追弔法会
- 四月十五日 真宗入門講座
- 四月十九日 はなまつり
- 四月二十九日 興学布教研究大会
- 五月六日～八日 堯祺上人御正當
- 五月十八日 布教伝道大会
- 五月二十日 真宗入門講座
- 五月二十一日 親鸞聖人降誕会
- 五月二十二日 第70回檀信徒研修会
- 六月七日 第56回高田派婦人連合大会

◆三月十六日は、如来堂にて十四日から二十二日まで公開されている大涅槃図の前で涅槃会のお参りをいたします。

◆四月八日の、釈迦三尊会
は山門上での参りです。当日、ご参拝の方はお昼前の限られた時間ですが、山門の上にあがりお参りいただけます。山門への行列は午前十時に、如来堂前西側に安置されている仏足石のお参りの後、山門へ向かいます。

千部法会とあわせて参りください。

◆四月二十九日の興学布教研究大会では、学術的な発表が行われます。午前十時から開催です。

◆祖師寿として、親鸞聖人と同じ九〇歳のお祝いをする子は親鸞聖人降誕会で、女子は高田派婦人連合大会でおこないます。お手次寺院にお申し出ください。

清掃奉仕ありがとうございます

ございます

(敬称略・奉仕日順)

十二月 三縁寺

一月・二月

厳寒期につき中断しております。三月も疾病拡散予防のため引き続き中断いたします。

報恩謝徳の気持ちをそえて、本山の清掃奉仕で汗を流しませんか。お寺以外の団体の方でもご奉仕いただけます。

お申し込み、お問い合わせは宗務院庶務部
電話059-232-4171
までお願いします。

寺院名



三重県津市一身田町
2819
真宗高田派本山専修寺

